

# 建設業社会貢献活動 功労者表彰を 大島支部が受賞!

(一社)全国建設業協会(全建)では、地域の建設企業が行っている社会貢献活動を国民に正しく理解・認識してもらうために、平成18年より毎年7月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定めています。月間中には各県建設業協会は会員企業と連携して、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動を広くアピールするとともに、公共事業への理解を深める活動を展開しています。その一環として、全建主催による、第12回「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」が去る7月20日に東京都の経団連会館において開催されました。

冒頭、近藤全建会長は、今夏の豪雨災害で亡くなられた方に哀悼の意を表するとともに、福岡・大分県建設業協会で多くの会員企業が現在も災害復旧に尽力していることに対し敬意を表しました。

近藤全建会長



また同年6月に取りまとめられた「建設産業政策2017+10」について「地域建設業に対する役割の一つとして、災害などの緊急時における公的な任務の担い手として行政に協力し、応急復旧を行う

ということが改めて示された」とのことを強調された上で、「全建では、これまで災害対応を含め、様々な形で社会貢献活動をしてきたが、こうした活動を国民、社会に理解してもらうため、本行事

において、各都道府県協会が実践している優れた活動の功労者を表彰するとともに、事例発表を行うので、最後まで聴講して頂きたい」と挨拶されました。

会長挨拶の後は、災害復旧支援活動や環境美化活動など7つの部門毎に受賞式が行われ、全国で23の協会、29社の会員企業が受賞しました。

本協会については、大島支部による会員を中心とした平成10年からの周防大島町内の道路や河川清掃を実施してきた実績が認められ、「環境美化活動」部門での受賞となりました。



賞状を手にした迫田大島支部長



社会貢献活動功労者の受賞を受ける大島支部迫田支部長

# 優秀な人材を確保・育成 優秀施工者(建設マスター) 国土交通大臣顕彰

10月6日、東京都のメルパルクホールで開催された「平成29年度優秀施工者国土交通大臣顕彰式典」において、建設マスター417名と今年創設された建設ジュニアマスター108名の授与式が行われました。建設マスター制度は、建設現場において工事施工に直接

従事し、優秀な技能・技術を有する建設技能者を「優秀施工者」として国土交通大臣が顕彰するもので、平成4年度に創設されました。また「建設ジュニアマスター」は、現場経験10年以上、39歳以下の若手を対象にしており、建設業界の喫緊の課題である若年入職促進活動の一環として、平成27年度に創設されました。



本協会では山口県土木建築部とともに、この制度の普及啓発に協力するため、毎年秋に「山口県優良工事表彰」を受賞された会員企業を対象に候補者の推薦を行い、平成29年度については有田貴行さん(㈱マエチ・白田建設(株)推薦)、近藤健二さん(㈱竹場組推薦)が顕彰されました。



(右) 有田貴行さん(㈱マエチ・白田建設(株)推薦)、(左) 近藤健二さん(㈱竹場組推薦) ※今回欠席

式典では、石井啓一国土交通大臣から「建設産業は人の技術・技能に支えられている産業である。本日顕彰された建設マスターの方々は、まさにものづくり、ひとづくりの名人と称されるにふさわしい方々である」と挨拶がありました。その後、全国から集まった顕彰者の中から、代表が賞状を受け取り、謝辞を述べられました。建設マスター関連として県内では、過去の建設マスター顕彰者であった(株)吉富組(美称支部)の村田信夫さんが「平成28年度山口県選奨(産業功労)」を受賞されました。これにより建設マスターの県選奨受賞者は6名となります。本協会では引き続き、国、県と協力して建設マスター制度の普及啓発に取り組みたいと思っています。